

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873800415
法人名	有限会社 ラッセル社
事業所名	うっかり長屋きなはいや
所在地	西予市野村町野村 1 1 - 1
自己評価作成日	平成28年8月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「呆けても自分らしく生きられる。R,R,Q」を理念に、自分らしい行動の支援、強制的ない対応を行い、自分の家族や、自分が将来生活しても良いと思えるところをすることを気にかけて行動しています。自分の家ではないけど、家に近い居場所で、のんびり、ゆっくり、皆と一緒に楽しんで暮らし、家に帰り生活したいと言う思いをかなえられるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者から「花を見に行きたい」との希望が多く、コスモスやひまわり、桜見物に出かけられるよう支援している。家族も一緒に楽しめるよう案内をしている。帰りには、喫茶店でお茶を楽しむこともある。近所のスーパーや本屋、百均の店に買い物に行き、近所の方から声をかけてもらうようなこともある。車椅子の利用者には、事業所の周りを職員が押しながらゆっくり歩き、季節の花を楽しめるよう支援している。

前回の外部評価結果を受け、通信を年4回発行し、家族への情報提供に取り組んでいる。通信の話題が会話のきっかけになっているようだ。毎月の利用料の持参時には、家族との時間をゆっくり持ち、日頃の状態を報告したり意見や要望を聞いたりしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 うっかり長屋きなはいや

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

西山 洋一

評価完了日

平成28年 8月 16日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「呆けても自分らしくいきられる。R,R,Q」 Relation:地域の皆様とのつながり Respect :高齢者を尊敬する Quality :介護の質 理念のもと、その人らしく暮らせる支援を心がけている。 束縛、強制のない行動の支援をいつも心がけたい。	
			(外部評価) 開設時につくった理念に、平成16年度、グループホームが地域密着型サービスに位置付けられたことを受けて「R,R,Q」を加えている。理念は、玄関、事務所に掲示しており、職員採用時やスタッフ会時に説明したり話し合ったりしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩や買い物に出かけたりすることで、地域の方のかかわりが持てるように努めている。近所の方が季節の野菜や果物をよく持ってこられる。七夕の時は近所から笹を頂いている。季節の野菜の収穫なども近所へ出かけたりしています。	
			(外部評価) 町内会に加入しており、地域行事等の情報は、回覧板や運営推進会議時に得て参加できるよう支援している。乙亥相撲にで出かけられるよう支援しており、地区対抗相撲や利用者のお孫さんが出場するのを応援してたいへん喜ばれるようだ。カラオケボランティアを受け入れており、利用者がリクエストした曲を歌ってくれる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 日常あった出来事をホームページのブログに載せている。どなたでも、きなはいやの生活をみていただけます。貸し出し図書なども行ってあります。きなはいや通信を面会者に配布してます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 気になること、気にかかることなどの意見を交換したり、季節の行事の情報を教えていただいている。来られていない家族にも内容を伝えている。民生委員の呼びかけにて地域の方にダンスや舞踊、ハーモニカ演奏をしていただいている。</p> <p>(外部評価) 会議には、その時に参加できる利用者、家族代表者、区長、民生委員、保育園の園長、市職員が出席しており、利用者状況・行事・事故・ボランティア状況の報告を行っている。事業所入口の段差が分かりにくいという意見に対して、メンバーから「段差に黄色塗料を塗ってはどうか」とアイデアがあり、採り入れていた。掲示板に、運営推進会議録を掲示している</p>	<p>事業所のサービス向上につながるような会議開催に向けて、今後さらに、会議への参加者を増やしたり、開催日程、内容等について検討してみてもはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護相談員を4ヶ月に1回訪問されている。地域包括ケアシステム「Kintone」に加入している。</p> <p>(外部評価) 介護相談員は、利用者とは話して情報提供がある。年1回の「地域密着サービス連絡会」に参加している。地域包括ケアシステム「Kintone」のアプリを利用して市や地域の最新情報を得たり、やり取りを行ったりしている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフ全員が理解できるよう、スタッフ会議などで説明を行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関は、夜間と日中の職員が少ない時間帯に施錠しており、出入口は、開閉時にブザーが鳴るようにしている。2階には居室があり、夜間のみ、階段降り口の引き戸に施錠をしている。出かけようとする利用者には、本人が納得いくまで付き添い支援している。ひとりで出かけているところを近所の方が知らせてくれたことがあった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待にも気をつけている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) スタッフ会議で勉強会を行った。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ時点で、説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見は日ごろから職員がきにかけている。家族の意見は面会や日常での電話連絡の際に、いつでも意見をいただけるように伝えている。出た意見はスタッフ会議で話合うようにしている。 (外部評価) 家族とは、個別にやり取りを行い、報告したり要望を聞いたりしている。遠方に住む家族とは、SNSを利用してやり取りを行っている。前回の外部評価結果を受け、通信を年4回発行し、家族への情報提供に取り組んでいる。通信の話題が会話のきっかけになっているようだ。毎月の利用料の持参時には、家族との時間をゆっくり持ち、日頃の状態を報告したり意見や要望を聞いたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者、管理者はいつでも職員の希望を聞き、可能なことは協力している。職員はそれぞれが自らを活かせる役割を持ち取り組んでいる。	
			(外部評価) 月1回のスタッフ会には、法人代表者も参加して、職員の意見を聞いており、意見には直ちに対応している。職員は、それぞれに、イベント係・保健係・裁縫係・室内環境係・室外係・下水掃除係・部品係・広報係等に所属し、責任を持って取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々にあった、環境や条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 講演会への参加、研修への参加をしてもらったり、参考資料を置くなどして、いつでも知識を実につけられるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域包括ケアシステム「Kintone」に加入している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 関わりを持ち、気付きを深める努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	相談時によく聞き、支援の方向を話合っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	可能な限り、支援することを努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	日ごろの支援から本人のできることを気付き、一緒に参加できる機会をつくっている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	気になること、気にかかるとはその都度、相談しながら行っている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	知人や家族の面会がある。本人の希望で家族の家に出かけたり、お墓参りや馴染みの美容室にも出かけたが、家族が作った野菜を収穫に出かけたりしている。	
			(外部評価)		
					知人や親戚の家を訪ねられるよう支援したり、馴染みの美容室を利用できるよう支援している。兄弟の葬儀に参列できるように、職員が同行したケースもある。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ソファや食事の座る位置にも気かけ、利用者同士の関係が作れるように常に気をつけている。他者との関係が気付くのが難しい方は、スタッフが関わりを多く持つように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事項の挨拶、連絡などを時折行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 馴染みの関係を保ち、個々の思い、意向を聴くように努力している。困難な方は家族の意向を聞いたりしている。 (外部評価)	
			入居時には、本人、家族、医師、ケアマネジャー等から情報収集を行っている。入居後に得た情報は、メモを取っておき、月1回のスタッフ会時に情報を共有している。個別記録や業務日誌には、利用者の言葉等を細かく記入している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、本人の日常の支援の中からや家族の訪問時などから情報を得ている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) それぞれの有する力を活用できる状態に誘導できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族の訪問時や電話などで話あったり、スタッフ会議で話合って個々にあったプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族の来訪時に担当者会議を開き、家族の意見や要望を採り入れた介護計画を作成している。「お金をどのように使ったか知りたい」と希望する利用者については、家族了解のもと、出納帳を付ける等して、利用者と職員で金銭管理ができるように介護計画を作成しているケースがある。サービス計画チェック表でサービス内容ごとに毎日 ×でモニタリングし、月ごとに確認し評価を行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々のケアプランの実践のチェック表、個別記録では出来事による対応、気づきの記録を行い。グループ日誌や申し送りノートなどで情報の共有に努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その都度対応できるように心がけている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日ごろのドライブや季節の行事に参加している。地区の回覧板などから地域の行事の把握に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人のかかりつけ医へ受診している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時には、希望のかかりつけ医で診てもらえるよう説明しているが、ほとんどの方は事業所の協力医を希望している。協力医は月1回往診があり、随時、電話で相談ができ対応もしてくれる。協力医から週1回看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員がいいため、変化があればかかりつけの病院に電話し指示を受けている。協力医院から看護師は週1回、主治医は月1回診察に来られる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の状態により早期に退院できるように連携し、通院での対応が可能になれば、退院し通院での対応を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族、かかりつけ医との話し合いで、入院、通院を見極め必要時は支援している。本人、家族の希望により看取りも可能。</p> <p>(外部評価)</p> <p>これまでに2名の利用者の看取りを支援しており、本人の強い希望で、家族も事業所に泊まり一緒に看取ったケースがある。協力医は、電話で相談ができたり、助言がある。又、変化時には往診に来てくれる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署から、応急救護、人命救助訓練に来ていただいている。職員全員が救命救急講習を受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署から、防災訓練を受けている。職員全員が救命救急講習を受けている。運営推進会議で訓練に参加していただいたり、地域との協力が得られるように関わりを持っている。非難道具を準備している。 (外部評価) 前回の外部評価を受けて災害対策の充実を図った。非常口にスロープを設置し、5月には運営推進会議を兼ね消防署指導のもと、夜間・日中の火災を想定して総合防災訓練を行った。居室に利用者が在室・不在かが分かるように、色の札を表示するようになっている。水、カレーライス、味噌汁、梅がゆ等の備蓄を増やした。又、懐中電灯、ガスコンロを玄関に準備している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日ごろから、プライバシーを傷つけないような言葉使いや、声かけに配慮している。 (外部評価) 事業所理念のひとつに「Respect :高齢者を尊敬する」と掲げている。敬語を使うと他人行儀になってしまうため、方言を交えた言葉で話しかけている。職員は、利用者からは昔の言葉や方言を教えてもらうようなことがある。排泄支援は特に注意しており、失敗したことを他者の前で言わないよう気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定ができるような声かけや、雰囲気を作れるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出かけたなど希望時は対応しています。自分なりのペースで生活できるように支援できている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室に通われている方もおられます。散髪の上質な職員が、個々の希望を聞き、個々にあった髪型に切ったり、髪染めなども行っています。美容師のご家族に出張美容を頼まれている方もおられます。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下準備、食後の食器拭きなど一緒に行っている。菜園で一緒に収穫した野菜も調理に使っている。食べやすい大きさや硬さに注意し調理している。 (外部評価) 献立は、その日に調理を担当する職員が立てている。調査訪問日には、家族からの差し入れの野菜と、事業所の畑で利用者と収穫した野菜を献立に採り入れていた。嚥下状態に合わせてミキサー食やとろみ食で対応しており、調査訪問調査時には、芋炊きの子芋や酢物用のツイモの皮はぎをする利用者の様子が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 普通食、キザミ食、ミキサー食、お茶ゼリーなど個々に合った対応をしている。バランスのチェック、食事量・水分量のチェックを行っている。水分を摂取のための声かけも気にかけている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用したりして、それぞれの排泄パターンにあった援助を行っている。 (外部評価) 排泄チェック表で確認して時間やタイミングをみながらトイレ誘導を行っている。便秘する利用者が多く、3日便秘が続くと朝、牛乳を飲んでもらって様子を見ている。紙おむつ使用の方について話し合い、紙パンツを使用して時間ごとにトイレ誘導を行う支援を繰り返し、パッドのみの使用でトイレで排泄できるようになった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 常に心がけているが、どうしてもだめな時は服薬もある。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 現在2日に1回の入浴になっているが、希望があれば毎日入浴ができるように対応している。 (外部評価) 利用者が入浴したい時に入れるように、職員が毎日、利用者個々に聞いてから支援している。その日の利用者の状況を見ながら2日に1回、午前か午後のどちらかに入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 皆さん気持ちよく眠られているようです。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全員が理解できているとは言えないが、職員のがいつでも個人ファイルで確認できるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 風船バレー、お手玉、家庭菜園の野菜の収穫、読書、ラジオを聴いたり、おり紙、裁縫、塗り絵、生け花などしています。月に1回カラオケボランティア絆の方が来られる。不定期ですが家族のオカリナコンサートや地域の方のダンスや舞踊、ハーモニカ演奏などもあります。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ドライブに出かけたり、季節の行事に参加したりしてます。希望により洋服などのショッピングにも出かけています。 (外部評価) 「花を見に行きたい」との希望が多く、コスモスやひまわり、桜見物に出かけられるよう支援している。家族も一緒に楽しめるよう案内をしている。帰りには、喫茶店でお茶を楽しむこともある。近所のスーパーや本屋、百均の店に買い物に行き、近所の方から声をかけてもらうようなこともある。車椅子の利用者には、事業所の周りを職員が押しながらゆっくり歩き、季節の花を楽しめるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望に応じて対応してます。自分の財布をもたれて自己管理し、欲しい物を買われる方もおられます。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できるように支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節ごとに飾りをしたり、一緒に飾りを作ったりしている。ご近所からいただいた花も飾っている。カレンダーボードを作って行事を書いています。各部屋温度計や湿度計も設置しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>華道を嗜んでいた利用者が玄関を入った場所に、秋の花を活けていた。居間の一角に畳スペースがあり、利用者は洗濯物をたたんだり、自分の座椅子を持ち込みくつろいでいる。壁には、紅葉や栗の飾りを飾ったり、カレンダーボードを掛け行事を記入している。調査訪問日には、ボードを見て「今日は中秋の名月ね」と話題になっていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者さんの状態に合わせて、家具の配置をかえたりして工夫をしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族と相談しながら使い慣れた物を持ち込んで頂いている。家族のアルバムやラジオ、CDラジカセなどの持ち込みされている方もいられます。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には使い慣れた椅子やタンス、本棚を持ち込んでいる。転倒の危険性のある利用者は、畳に布団を敷いたり、マットに敷布団を敷いて対応している。好きな飲み物を持ち込み、飲みたい時に飲む方もいる。壁には、家族の写真やカレンダーを飾ったり、一日の日課を貼っている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>必要に応じ、手すり、ベッド、福祉機器などを準備している。</p>	